

海外生活を支える活動のご紹介(4)



海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会

-海外邦人向け子育て支援ボランティアのご紹介-

With Kids

木下 早絵子

<はじめに>

平成 23 年の外務省の調査によると、海外に住む日本人 1,182,557 人のうち、学齢期（小・中学生）の子どもは 64,950 人となっています。未就学児・高校生の数は明らかになっていませんが、それらを含めると 0 歳～18 歳の子どもは 10 万人を超えると考えられます。

日本とは異なる生活環境、文化、言語に囲まれて海外で暮らすのは、大人にとっても子どもにとっても、とてもストレスフルなことです。海外で働く日本人が急激に増えている今日、社員へのメンタルサポートを行う企業は増えているようですが、その家族、特に子どものこととなると、なかなか専門的な相談を受ける機関がないのではないのでしょうか。

<With Kids のご紹介>

With Kids は海外在住の日本人の子ども、保護者、教員を対象にメンタルサポートを提供する、臨床心理士のボランティアグループです。

代表の澤谷は、駐在員の夫の帯同家族として、1995 年～2003 年までの 8 年間をインドネシアのジャカルタで過ごしました。その間に在ジャカルタ邦人のメンタルヘルスクエアを目的として、心理・教育・医療・福祉等の有資格者のボランティアグループ「ジャカルタカウンセリング」を立ち上げました。その活動の一環として「幼児健診」を実施するとともに、(財)海外邦人医療基金（以下 JOMF）の協力で小児科医師を日本から招き、2001 年より「小児科医による子育て相談会」を行うようになりました。

帰国当時、日本では子どもたちの心の問題に関心が高まっており、スクールカウンセラーの配置が急速に進められていました。澤谷自身もスクールカウンセラーとして子どもたちの日常と関わる中で、「海外に暮らす子どもも日本国内と同じように心の健康のサポートを受けられたら・・・」という思いが強まり、同じような思いを抱いていた臨床心理士たちとともに 2006 年に With Kids を立ち上げました。

メール相談が基本的な活動ですが、海外の日本人学校、補習授業校等を訪問し、個人面接相談や教員へのコンサルテーション、講演会、研修会の実施といった直接的な支援も行っています。また、各日本人学校や関係者に向けて 1 年に 2 回ニュースレターを発行し、情報提供や活動報告を行っています。さらに、メンバーのスキル研鑽のために、専門の講師を招いた研修会の開催や、臨床心理学及び関連分野の学会での発表を継続して行っています。

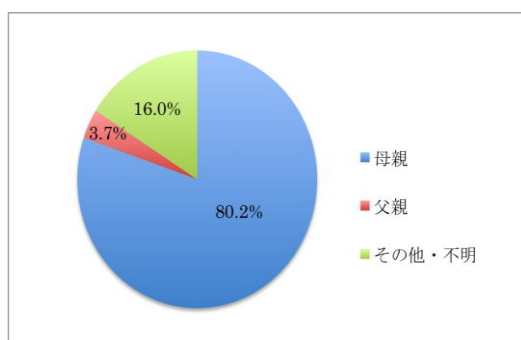
メンバーは約 15 名で、スクールカウンセラー等教育分野の他、医療、福祉、産業の各分野で心理臨床に携わっています。半数近くが海外滞在や海外での子育てを経験しており、現在海外で生活しているメンバーも数名います。

<メール相談について>

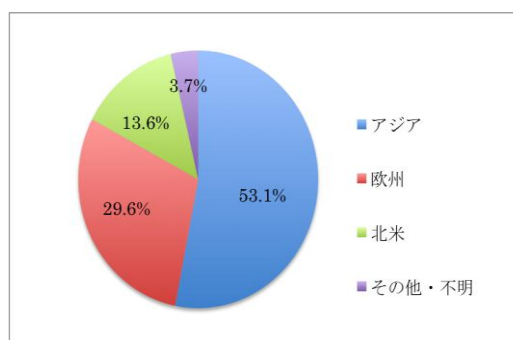
With Kids のホームページ (<http://withkids-japan.com/>) にある相談フォームから、相談を受け付けています。匿名やハンドルネームでもお申し込みできます。臨床心理士には職業上の守秘義務があり、ホームページのセキュリティにも十分注意しておりますので、相談内容及びメールアドレス等の個人情報が他に漏れることは一切ありません。

一つのご相談につき、最初のメールより3往復を限度に終了させて頂くことを最初にお伝えしております。別のテーマであれば、また新たにご相談頂けます。

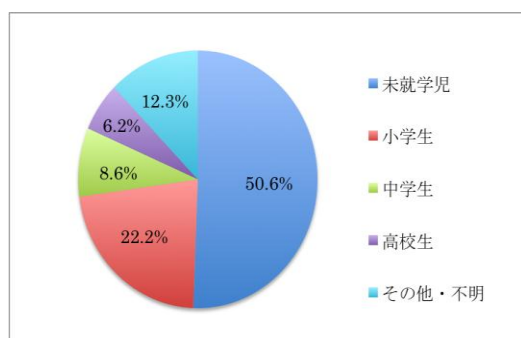
メール相談を開始した2007年5月から2012年6月末までに寄せられた相談を以下のグラフにまとめました。



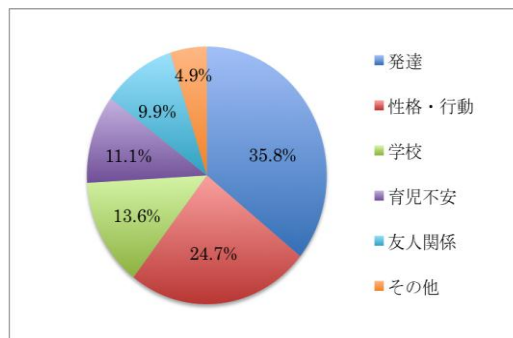
グラフ 1.相談者



グラフ 2.相談者の滞在地域



グラフ 3.相談対象者の年齢



グラフ 4.相談内容

相談者の8割が母親で、海外においてもやはり子育ての中心は母親が担っています。

相談者の滞在地域では、近年日本企業の進出が急激に増えているアジアからのご相談が最も多くなっています。次いで欧州諸国、北米の順です。滞在する日本人の数に対して、北米からのご相談の割合が少ないのは、北米では教育サービスが充実していること、第一言語が英語であり、日本人にとっては相談の際の言葉の壁が低いことが関係しているのかもしれませんが。

また、相談対象者の割合では、未就学児、小学生、中学生、高校生の順で多くなっていました。アジアの場合、就学後はほとんどの子どもが日本人学校に通うこととなりますが、幼稚園やプレスクールの段階では日本語はもちろんのこと、英語すら通じない教育環境にいることが少なくありません。また、日本国内では制度化されている乳幼児健診が海外では受けられません。これらの理由から保護者が不安を抱きやすいと思われます。

相談内容としては、言葉の遅れや知的な遅れ、落ち着きのなさ等、発達に関するものが最も多く、中には発達障害（自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害等）を疑うものや、既に医療機関で診断を受けている例も見られます。次いで、チックやかんしゃく等性格や行動に関する相談、不登校等学校に関する相談、友人関係等対人関係に関する相談、育児

不安の順となっていました。

上述したように、未就学児の場合、外国語環境で集団生活を送っている子どもが多いと推測され、子どもの発達の様子に違和感を持って、外国語を理解できていないためなのか、発達障害によるものか見極めにくいことがあります。

また、実際に発達障害の疑いがあっても、日本語で受診・相談できる専門機関は海外にはほとんどありません。そのため、多くは一時帰国して受診することになりますが、日本国内においても子どもの発達障害を専門としている児童精神科医は非常に少なく、初診まで数か月待たなければならないこともあります。With Kids では、専門医と連携して申し込みから初診までスムーズに運べるようなコーディネート的な支援ができるように、ネットワーク作りを進めています。

<海外訪問活動>

これまでメンバー数名がアジアと欧州の 16 か国、21 都市に赴いて、日本人学校、補修授業校、幼稚園等を訪問し、相談活動、講演会、子育てに関するワークショップ等を行ってきました。澤谷は 2006 年の JOMF 主催の「バンコク育児相談会」にも参加しています。

ジャカルタには、滞在経験のあるメンバーが多いこともあって、発足以来毎年訪問し、日本人学校での個別相談会の実施や、ジャカルタカウンセリング主催で現在も実施されている幼児健診で発達検査の手伝いをしています。

また、台湾への訪問は、現地からのオファーもあり、この 10 月で 3 回目となります。これまで 2 回は台北のみの訪問でしたが、今回は台中、高雄の日本人学校も訪問し、個人相談、講演会等を行う予定です。



ジャカルタ日本人学校にて



ワークショップ CARE の実施



発達検査の実施

<今後に向けて>

With Kids の活動も 7 年目に入りました。過去にこのような海外邦人、特に子どもに対するメンタルサポートの例はほとんどなく、ほぼ手探りで活動を続けてきました。

本年 3 月には、(財) K D D I 財団の助成金 (社会的・文化的諸活動部門 <http://www.kddi-foundation.or.jp/support/social/result/2011.html>) を受賞することができました。この助成金で、ホームページを一新し、個人情報の保護をより確実に安全に行える環境を整備致しました。相談者の方にはこれまで以上に安心してメール相談をご利用いただけます。

また、JOMF からご紹介頂いたご縁で、(財) 海外子女教育振興財団と協働して、日本人学校等に対しより細やかに援助できる方法を検討しているところです。

今後も、海外に暮らす子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、関連機関の方々と手を携えて貢献していきたいと思っています。